

第2章 周南市の教育を取り巻く状況

子供の学力、生活習慣・学習習慣、体力等に関する全国調査や生涯学習に関する市民アンケート調査など、教育に関する各種の調査結果を用いて本市の教育を取り巻く状況を示します。

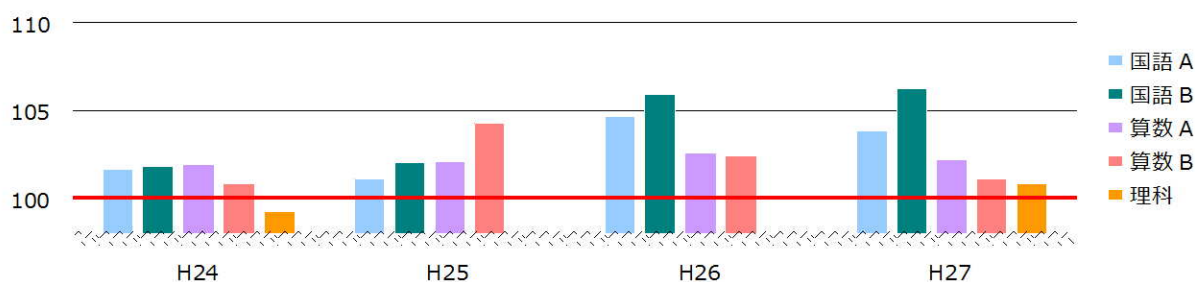
子供の学力の状況

本市の子供の学力の一つの側面として、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に実施する全国学力・学習状況調査のうち教科（国語、算数・数学、理科）に関する調査における本市の児童生徒の平均正答率と全国平均正答率との比較からみることができます。

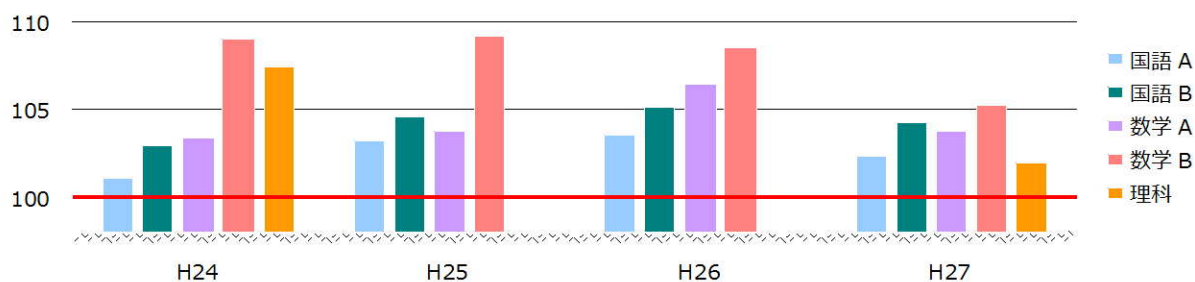
この調査では、実施する教科が3教科のみで、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことから、把握できるのは学力の特定の一部分でしかありませんが、近年は、いずれの教科も全国の平均を上回っています。

確かな学力を形成するために、教職員の授業力をさらに磨くとともに、資質向上を図るなど、人材育成を引き続き推進する取組が必要です。

本市の小学校6年生の平均正答率（全国を100とした場合の比較）



本市の中学校3年生の平均正答率（全国を100とした場合の比較）



出典：全国学力・学習状況調査（文部科学省）

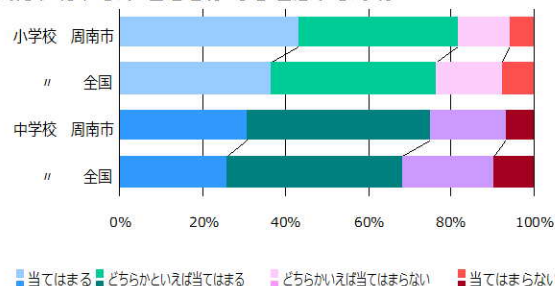
子供の生活習慣・学習習慣等の状況

基本的な生活習慣や学習習慣を身に付け、自己有用感、自己肯定感を高め、子供たちの豊かな人間性と社会性を育むことは、確かな学力を形成する上で欠かせないことです。

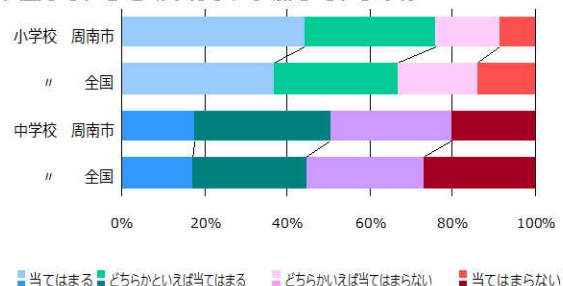
本市の子供の生活習慣、学習習慣等の状況については、全国学力・学習状況調査のうち児童生徒に対する質問紙調査から、自尊意識や規範意識に関する項目、学習状況に関する項目等で、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」といった肯定的な回答の割合が全国と比較して高い傾向がみられます。また、地域行事に参加していると回答した児童生徒の割合も全国平均より高く、生活の中で住んでいる地域とのかかわりを大切にしている様子がうかがえます。

豊かな心を育成するために、学校・家庭・地域が連携し、一体となって社会総がかりで取り組んでいくことが重要です。

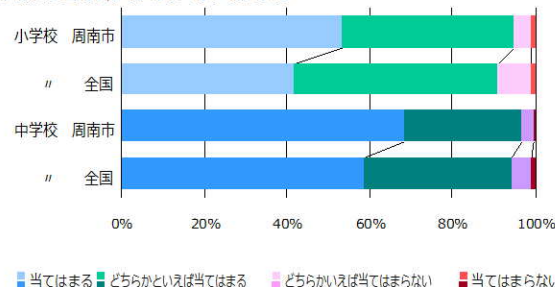
自分には、よいところがあると思いますか



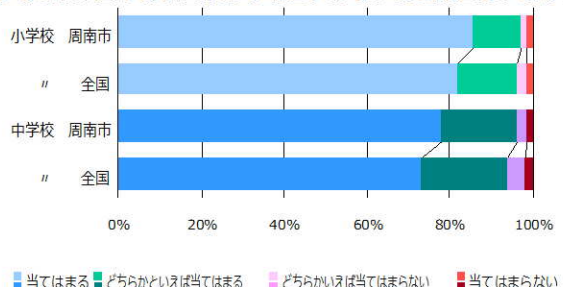
今住んでいる地域の行事に参加していますか



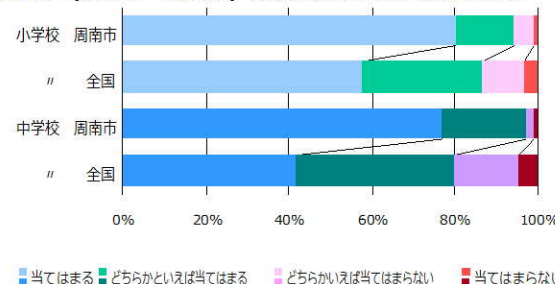
学校のきまりを守っていますか



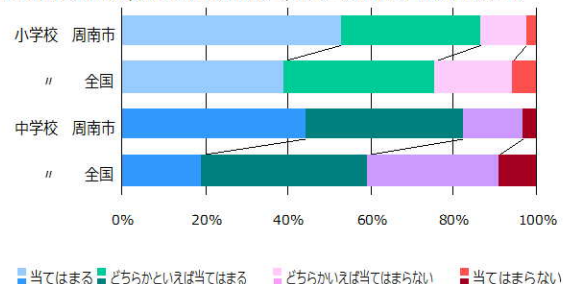
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



小学校5年生（中学校1、2年生）までに受けた授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか



小学校5年生（中学校1、2年生）までに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか



出典：平成27年度 全国学力・学習状況調査（文部科学省）

子供の体力・運動習慣等の状況

本市の子供の体力については、小学校5年生と中学校2年生を対象に毎年実施されている全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点（体力8項目の結果をそれぞれ10点満点で得点化した合計点）が全国の平均点を下回る傾向にありましたが、山口県教育委員会が平成23年度から1校1取組の推進など、子供の体力向上に向けた取組を充実させ、本市においても継続してまいりました。こうした取組の成果が表れ、近年では全国の平均と概ね同程度で、特に中学校2年生の女子生徒に関しては全国の平均を上回る傾向にあります。

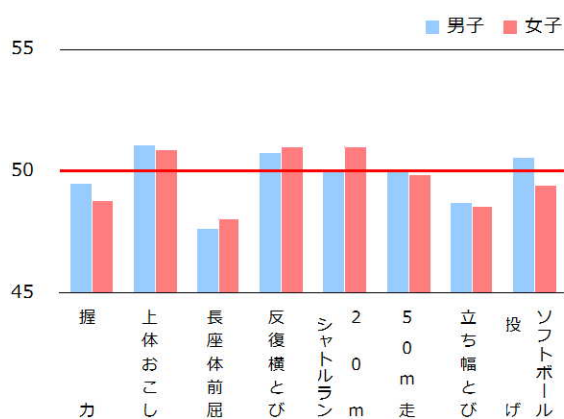
種目別では、小中学生の男女とも全身持久力（20mシャトルラン・持久走）や敏捷性（反復横とび）については全国平均を上回っていますが、筋力（握力）や柔軟性（長座体前屈）については、県全体と同様に全国平均を下回る傾向が続いています（**下グラフ参照**）。この状況を改善し、バランスのとれた体力向上を進めていくために、課題をしばらく年間を通した重点的な取組を推進する必要があります。

また、全国的な傾向として、現在の子供の体力・運動能力は、昭和60年頃と比べて低い水準にあり、体力・運動能力の高い子供と低い子供の格差が広がるとともに、体力・運動能力が低い子供の割合は増加しており、運動をする子供としない子供の二極化傾向が指摘されています。

運動経験が少ない子供が積極的に体を動かす機会を作るため、学校・家庭・地域が連携した取組の推進が必要です。

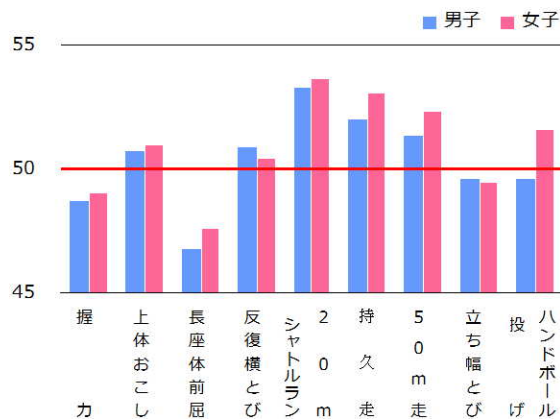
本市の小学校5年生と全国の種目別得点

（各種目の全国平均値を50とした場合の比較）



本市の中学校2年生と全国の種目別得点

（各種目の全国平均値を50とした場合の比較）



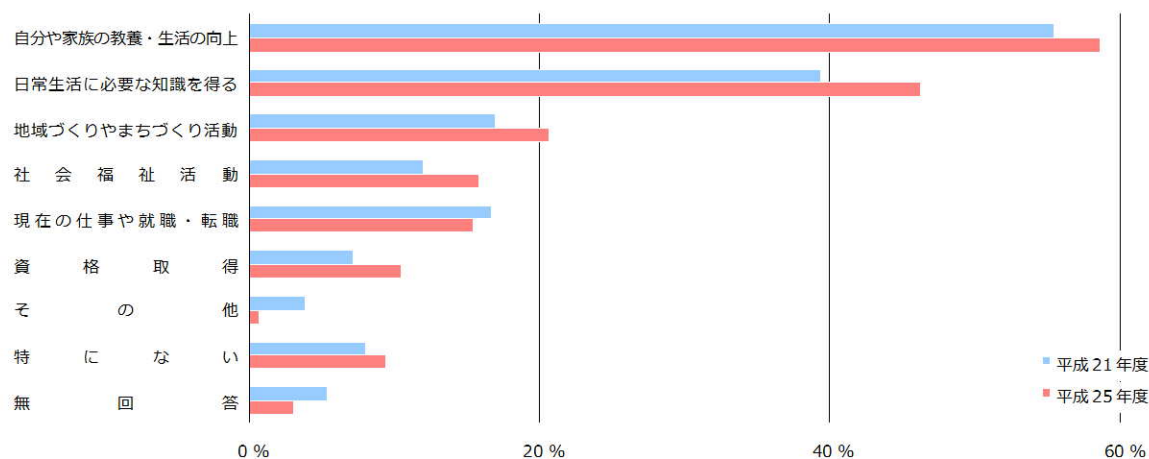
出典：平成27年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査（文部科学省）

生涯学習の状況

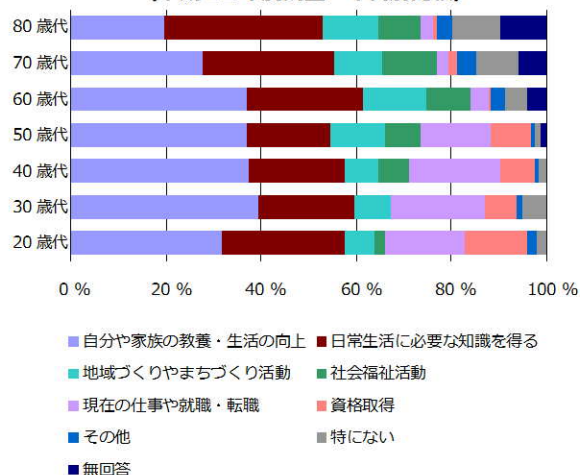
周南市が実施した平成21年度生涯学習市民意識調査（以下「平成21年度調査」という。）と平成25年度周南市民アンケート調査（以下「平成25年度調査」という。）の生涯学習の項目において「この1年間で何らかの生涯学習活動に取り組んだ」と回答した人の割合は、平成21年度調査では55.7%、平成25年度調査では61.0%で5.3%増加しており、世代に関係なく生涯学習活動の広がりがみられます。

また、生涯学習で学んだことをどのように生かしたいと思うかの問いに、「自分や家族の教養・生活の向上」、「日常生活に必要な知識を得る」が平成21年度調査、平成25年度調査とも上位2項目となっており、いずれもその割合を伸ばしています。平成25年度調査では「地域づくりやまちづくり活動」、「社会福祉活動」などの公益を担う活動を挙げる割合が大きく伸びており、社会環境の変化による影響や市民活動の推進、協働のまちづくりの成果の表れとみることができます。

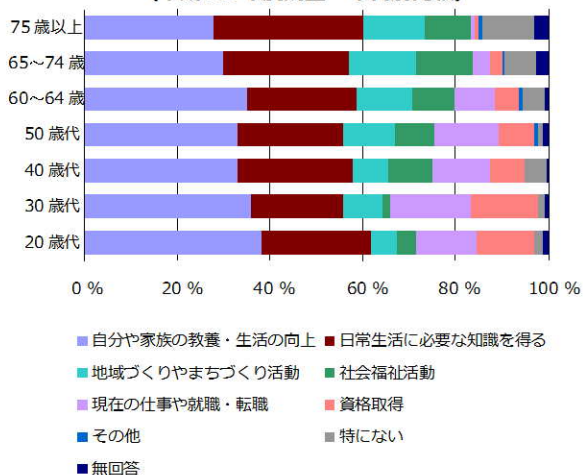
学習成果の活用について



学習成果の活用について
(平成21年度調査・年代別比較)



学習成果の活用について
(平成25年度調査・年代別比較)



出典：平成21年度生涯学習市民意識調査（周南市）、平成25年度周南市民アンケート調査（周南市）